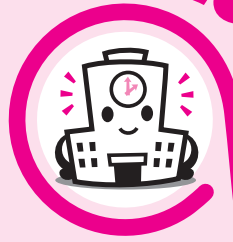


# つながる



## 学校と家庭の学び

# 「じぶんコントロールカード」で 目標達成のスキルを身に付ける

### 埼玉県三郷市立前間小学校

三郷市立前間小学校が行う「じぶんコントロールカード」は、子どもが目標を決め、その達成を積み重ねる取り組みだ。「自分へのごほうび」や、毎日自分に声を掛ける「ひとこと」欄を設け、目標達成に必要なセルフコントロールスキルを身に付けさせようとしている。このカードに保護者がコメントを書くことで、更に、子どもの意欲を高めている。

### 自分で自信を持ち 中学校でも活躍してほしい

三郷市立前間小学校では年々児童数が減り、今では全校児童約150人、市内で最も児童数が少ない小学校だ。クラス替えをせずに6年間を過ごし、異学年交流や全校児童で行う活動を重視していることもあり、子どもたちの仲は良い。また、保護者も毎年ほぼ同じ顔ぶれとなるため、PTAなどを通じて横のつながりが強くなり、学校活動にも協力的だ。一方、卒業後は市内で最も規模が

大きく、4つの小学校から生徒が入学する中学校に進学する。環境が大きく変わり、学級に前間小学校出身者が2、3人という状況になることから、子どもが萎縮し、自分らしさを発揮できなくなるのではないかと心配する声が、保護者や教師からあった。河田嘉春校長は次のように話す。「子どもは勉強にも行事にも頑張っ

て取り組んでいます。市の大会など、校外の活動では気後れし、力を発揮できないこともありました。また、将来の夢について答えられない子どもが目立つことも気になりました」

### 自分で目標を決め スマールステップを積み上げる

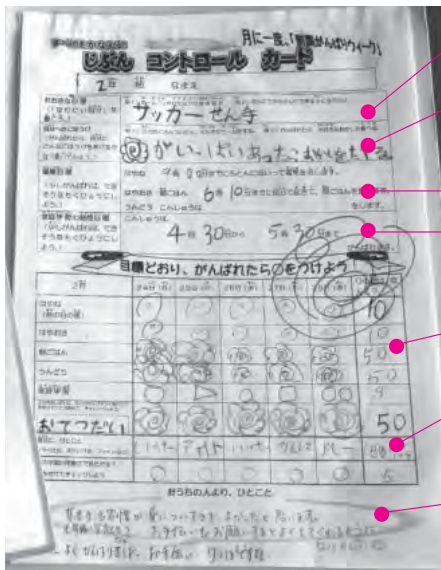
目標や夢を持ち、それに向けて努力することは将来大切な力となり、その積み重ねによって自己肯定感を高めてほしいという思いから、2012年度に始めたのが「じぶんコントロールカード」だ(図1)。子どもが自分で「大きな目標」を立て、頑張った時の「自分へのごほうび」を書き、就寝・起床時刻や家庭学習時間などの目標を決め、毎月1週間、毎日チェックする。そして、保護者が子ども

の記入を見て励ましのコメントを書き、翌週月曜に担任に提出する。

項目は、前教務主任が大学院派遣研修で学んだことを生かして設定された。「大きな目標」は将来につながる目標であり、毎回書くことで意識化が図れる。就寝・起床時刻や家庭学習時間などの目標は、毎日スマールステップを積み重ねることにつながる。更に、「自分へのごほうび」や「自分にひとこと」などの欄を通して、目標達成のための3つのスキルを身に付けることをねらっている。

◎目標設定スキル 簡単すぎず、あ

図1 「じぶんコントロールカード」子どもの記入例、および保護者への説明



- **大きな目標** 将来の夢、近い目標、人として……書けることでよいです
- **自分へのごほうび** がんばった自分に自分自身でごほうびをあげることが、意欲の持続につながります
- **健康目標、家庭学習の時間目標** いきなり、無理をさせないほうがよいでしょう。少しずつ改善していく方向にしていくと○が多くなり、自信や意欲につながります
- **目標どおり、がんばったら○をつけよう** 自分の行動を振り返り、○×をつけます
- **自分にひとこと** 自分に励ましの言葉を掛けることで、目標達成への追い風となります(自己教示スキル)
- **おうちの人よりひとこと** お子さんの行動に対して褒めてあげてください。行動が強化され、更なる意欲につながります

「じぶんコントロールカード」は1～6年生まで同じ用紙を用いる \*同校の資料を基に編集部で作成

### 埼玉県三郷市立前間小学校

◎1984(昭和59)年開校。埼玉県の南東部に位置する。1～5学年が単級(6学年は2学級)の小規模校であることを生かし、「学校・家庭・地域による『共育』をめざして」を目標に掲げて、家庭や地域との連携に力を入れる。2012年度から2年間、三郷市の「算数・数学課題解決研究」を委嘱され、研究に取り組んだ。

校長 河田嘉春先生  
 児童数 147人  
 学級数 7学級  
 所在地 〒341-0015 埼玉県三郷市前間197-1  
 TEL 048-958-1211  
 URL <http://www.edu.city.misato.lg.jp/dd.aspx?menuid=2026>



三郷市立前間小学校校長  
**河田嘉春**  
 かわだ・よしはる  
 「子どもの良いところをどんどん褒めて認め、伸ばしていきたい」



三郷市立前間小学校教頭  
**山口清孝**  
 やまぐち・きよたか  
 「子どもの全力を引き出すために、まず教師が何事にも全力で取り組む」



三郷市立前間小学校  
**佐伯貴夫**  
 さえき・たかお  
 教務主任。「全校児童が1学級という気持ちで、みんなが笑顔になる学校をつくる」



三郷市立前間小学校  
**松本拓也**  
 まつもと・たくや  
 6学年担任。「誰に対しても何事にも誠実に対応できる教師でありたい」

\*プロフィールは2014年3月時点のものです

る程度チャレンジが必要な、具体的な目標を立てられるようにする。

◎ **自己強化スキル** 頑張っている自分に「ごほうび」をあげ、意欲が持続できるようにする。

◎ **自己教示スキル** 良い時でも悪い時でも、自分で自分の気持ちを前向きに高められるようにする。

山口清孝教頭はこう説明する。「ごほうび欄は自分の頑張りを自分で認める自己肯定感に、自分にひとこと欄は自己教示につながります。当初はごほうび欄に『ケーキが食べた』などと書く子どもが目立ちました。『これが出来たら兄弟で遊ぶ』など気持ちの面での内容を書く子どもも増えてきました」

年間10枚になるカードは1つのファイルにまとめて成果を残す。また、毎月の取り組み後、各学年1人、頑張った子どもや工夫がある子どものカードを、廊下にコーナーを設けて貼っている。

保護者には資料を配布し、保護者会で取り組みの意図を説明した。毎回、子どもの記入をきちんと見てコメントを書く保護者が多い。6学年担任の松本拓也先生は、次のように話す。「保護者には『子どもが決めた目標を達成できるまで見届けましょう』と伝えていきます。努力が認められれば、子どもはうれしくなり、次も頑張ろうと思うでしょう。教師も子どもの良さを見付け、出来ないことがあっても次の課題として、子どもが肯定的に取り組めるように声を掛けています」

教務主任の佐伯貴夫先生も話す。「認められる喜びや目標を達成する喜びを知った子どもたちは、以前の目標を踏まえて自分なりに目標を上げていくようになりました」

「家読ゆうびん」で活性化する本を介した家庭での対話

このように、同校では子どもと保護者がやりとりをする取り組みを重視する。保護者の支援によって進める活動には、読書活動もある。三郷市は「読書のまち三郷」として読書活動に力を入れおり、同校も読解力や表現力の育成につながる取り組みとして読書習慣の定着を図っている。毎週月曜の朝の活動では、保護者ボランティアが読み聞かせをする「ふれあい読書」を行う。また、毎月第4土曜・日曜を「ノーテレビデー」とし、家庭で本を読む日にするよう呼び掛けている。

夏休みには自由課題として「家読

図2 子どもと保護者が本を紹介し合う「家読ゆうびん」



「家読ゆうびん」の形式は自由。左の写真では、B4版の用紙の左半分が子どもが書いた感想、右半分が保護者が書いた感想。三郷市では「家読ゆうびんコンクール」を毎年開催している

ゆうびん」を提案したところ、13年度には約45組の親子が参加した。これは、子どもが読んで面白かった本を保護者に薦める絵手紙を書き、保護者はその本を読んだ感想や、自分が子どもの頃に読んだ本を子どもに薦める内容の絵手紙を送るといふ、家庭内の往復書簡だ(図2)。

「全校児童の3割が取り組み、保護者の読書への関心の高さを感じました。保護者からは『子どもと本を紹介して会話が aumentata』なども聞いて

います。本校の図書室の貸し出し冊数も1人当たり年間40冊以上に上り、確実に読書習慣は定着しています」(山口教頭)

13年度には、松本先生が保健の研究授業を行った際、保護者が子どもの学びに深くかかわる工夫をした。「未来につながる姿」と題し、たばこや飲酒、薬物などについて学びながら、将来の夢や目標を達成するためには、何よりも健康が大事であることを伝える、全5時間の授業だ。

松本先生は、毎時間の学習内容をまとめる「保健学習手帳」に「おうちの方から」の欄を設けた。子どもが授業で学んだことを書く「本日の健康レポート」を見ながら、家庭で話し合い、感想を保護者に書いてもらう。更に、「保健学習通信」を毎時間発行し、授業内容を伝えると共に、「保健学習手帳」の保護者のコメントを載せ、保護者の横のつながりが生まれるようにもした。

「子どもと保護者が、学習内容について同じ知識を持って話せるようになりました。保護者の授業に対する理解が深まっただけでなく、保護者ともやりとりすることで子どもの興味を広がり、授業の厚みが増したように

感じています」(松本先生)

### 保護者と学校が双方向にやりとりできる場をつくりたい

保護者が子どもの学びにさまざまな場面がかかわるようになり、家庭学習への関心も高まっている。アンケート結果では「子どもが宿題や家庭学習に取り組んでいる」と考える保護者が約92%に上った。保護者の学校への協力姿勢も更に強まっている。

「保護者が学校に協力したいと思っても、どうすればよいか分からないと思います。学校が場を設けて働き掛け、保護者がかかりやすい形にすることが重要です」(佐伯先生)

子どもの姿にも変化が見られる。「中学校からは、本校の卒業生が生徒会や部活動、合唱大会の伴奏など、さまざまな場で活躍していると聞きました。自分の可能性を信じ、身に付けた目標達成のスキルを使い、新しいことに挑戦しようという意欲が育まれていると感じます。保護者参加型の授業を広げるなど、これからも保護者と学校の双方向のやりとりが出来る場をつくり、学校への理解を深め、共に子どもを育てる体制を築きたいと思います」(河田校長)

## 夏休み前の学級活動でお使いいただける副教材を無料でご提供します

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2013年度は、のべ約11,000校で、約218万冊ものご活用をいただきました。2014年度は、高学年の児童向けに、夏休みの上手な過ごし方を指導いただく際に役立つ副教材を無料でご提供いたします。夏休み前のご指導に最適な教材です。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。ただ今、申し込み受付中です。詳しくはホームページまたは本誌同送のチラシをご覧ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

未来に進むちからを育むプロジェクト。ベネッセの学び応援

申し込み締め切り

2014年

7/11 金

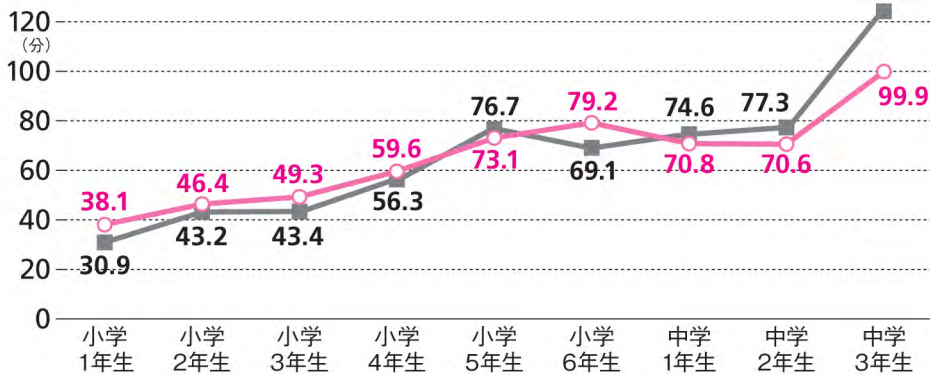


## 子どもの勉強時間は、保護者のかかわり方で大きく変化する 小学校段階では有効な保護者からの働き掛け

学年別／学習へのかかわり別 子どもの平均勉強時間(回答:首都圏の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ母親)

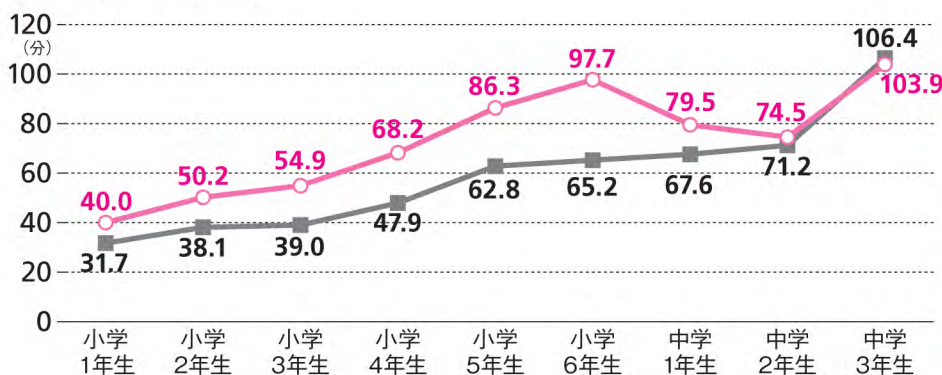
○ よくある+時々ある    ■ あまりない+ぜんぜんない

### ◎「勉強しなさい」と声を掛ける



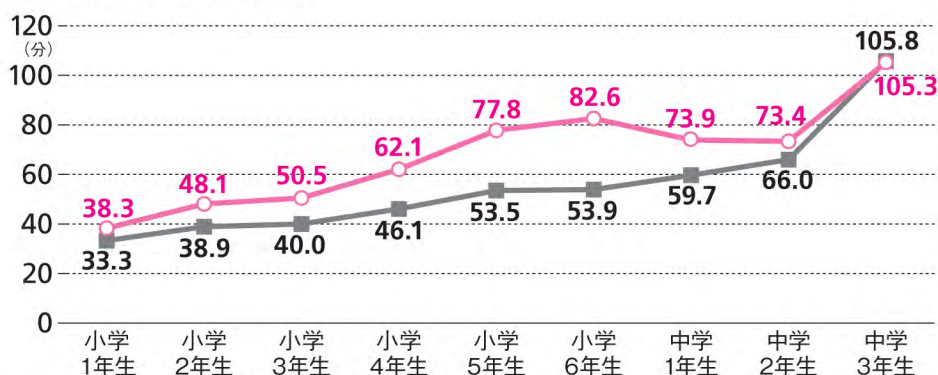
母親が「勉強しなさい」と声を掛けると、小学校段階では小学5年生を除いて、勉強時間がやや長い。ところが、中学校段階になると、保護者が学習を促してもあまり効果が見られなくなり、中学3年生では声を掛けない方が20分以上長い

### ◎勉強の計画を一緒に立てる



母親が勉強計画を一緒に立てると、そうでない場合よりも、小学6年生で勉強時間が30分以上も長い。ただし、中学生になると、自分で計画を立てて勉強することが大切になるため、次第にその差は縮まり、中学3年生ではわずかに逆転する。小学校段階では、保護者が一緒に計画を立てることが学習には有効そうである

### ◎勉強の意義や大切さを伝える



保護者が勉強の意義や大切さを伝えると、高校受験のある中学3年生以外、全ての学年で勉強時間が長い傾向がある。子どもの学習に直接かわる行動ではないが、子どもが納得して学習に取り組むためには、大切なかわりだと考えられる

注1) 勉強時間は1日の学校以外での平均勉強時間で、学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間を含む

注2) 子どもの勉強時間の平均は、「ほとんどしない」を0分、「およそ30分」を30分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出

出典:ベネッセ教育総合研究所「第4回子育て生活基本調査(小中版)」(2012)

調査時期は、2011年9月、調査対象は、首都圏の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者8,079人(うち分析対象は母親7,519人)、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!

<http://berd.benesse.jp/>

\*「調査・教育データ」コーナーをご覧ください